

# 学校評価集計結果の分析・考察及び改善策の検討

令和2年度

## 保護者

### 1. 集計結果の分析・考察

#### ○回収率

全体の回収率は、72.3%←96.4%（令和元年度）←88.9%（平成30年度）  
\*今年度は、安心安全メールで実施。回収率が下がった。

#### ○評価の全体傾向

昨年度は、各学年ともAとBの評価が多く、すべてが◎だったが、今年度は、全体集計で15項目中、生徒の学校生活に対する主体性を調べる項目4つのうち2項目で△だった。

9 宿題以外の学習をするように心掛けている。(AB 59%)

12 進路に関する指導・面談で先生に積極的に相談している。(AB 75%)

以上の項目から、学校生活への受け身の姿勢を感じられる。

#### ○学年ごとの傾向

< A, Bの合計が多いもの >

11 交通ルールやマナーや社会生活のマナーを守っている。

1年 100% 2年 97% 3年 96%

14 学校からの配布物や広報で学校の様子が分かる。

1年 100% 2年 98% 3年 100%

4 先生は日頃から声を掛け、生徒の話に耳を傾けている。

1年 90% 2年 86% 3年 100%

規範意識が高い生徒が多いと保護者は思っている。学校生活を見ても、ほとんどの生徒はルールを守ろうと心がけていると思われる。

今回、アンケートに回答した保護者は学校への意識が高いと思われる。

< C, Dの合計が多いもの >

回答者は、良くも悪くも意見を持っている方だと思われる。上記の全体評価で△だった項目に以外にも2年生では△が3項目あるが、一人の回答者がA又はBを選ぶと◎になる79%なので、検討するほどでは無い。

1年生は、高校生活に慣れる期間が不安定な情勢があったためか、主体性が他学年に比べ低い。

### 2. 改善策及び今後の在り方・方向性等

保護者も子どもが受け身であることを認識している。保護者のコメントは少ないが、学校への期待がある。積極的な姿勢は、社会人になっても必要なので、学習面や生活面で自分で考えさせて行動させる機会を増やしていく。進学校としての学力向上、生徒が希望する進路実現への期待も高い。宿題の量について、各教科間で、課題の量の調整を適宜行い、本当に課題の量が調整されているのか生徒の記録する『向上の道』をもとに、再評価する必要がある。

保護者の立場から、指宿高校の活性化と生徒数増加のためのアドバイスをいただいた。各係で検討し、指宿高校の良さをPRし、地域の方々にさらに理解を深めていただくような機会を考えていく。